

様式6

令和4年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市ふれあいデイサービスセンター
施設の設置目的・役割	家に閉じこもりがちな高齢者の自立生活の助長と介護予防を図る
施設の所在地	岡崎市榎山町字仲村10番地1
施設規模	敷地面積：835.25㎡ 建物面積：90.77㎡（管理床面積）
指定管理者	名称：社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会 所在地：岡崎市美合町字五本松68番地12 代表者：太田 俊昭
指定期間	令和3年4月1日から令和8年3月31日まで（5年間）

1 事業の実施状況並びに施設の利用状況

(1)実施状況

岡崎市ふれあいデイサービスセンター：定員10名

	年間実績	月平均	利用率
開所日数	242日	20.1日	
登録者数	658人	54.8人	
利用者数	1,554人	129.5人	64.2%

利用率は定員に対する率、小数点第2位以下切り捨て

(2)事業実施に対する自己評価

1日当たりの利用率は約64%（平均6.4人/日）となり、前期と比較して、1日あたり受入人数が減少（-0.5人/日）した。この原因としては、登録抹消者数に対して新規登録者数が少なかったことがある。また送迎に関して、送迎時間を可能な限り短くするよう利用者の居住地域を考慮した班編成を行い、送迎距離が短くなるよう調整を行っているため受け入れ人数が定員を下回る班もある。

このほか、新型コロナウイルス感染症の影響もあったと考えられ利用者が増加するには至らなかった。

今後も、周知活動及び利用希望者の情報収集、額田地域包括支援センターとの情報共有など、利用者の掘り起こしを継続していく。

## 2 収支状況

### (1)収支状況

	項目	内 訳	決算額(円)
収入	指定管理料		9,586,800
	利用料金収入		466,200
	前期末繰越金		4,304,737
収入計			14,357,737

	項目	内 訳	決算額(円)
支出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷費 修繕費、清掃等委託料、保険料等	10,012,728
	(うち修繕費)	※精算項目	96,800
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	4,345,009
支出計			14,357,737
差 引			0

### (2)収入状況に対する自己評価

新型コロナウイルス感染症の対策に努め、休館することなく開所することができたが、利用者数の減少に伴い利用料収入は前期よりも微減した。

## 3 利用者アンケート結果

### (1)実施概要

実施期間	回答者数	アンケート実施方法
令和4年12月6日(火) ↓ 令和5年1月13日(月)	51名/55名	利用者全員に対し、無記名方式によるアンケート

### (2)アンケート結果概要

#### ふれあいデイを利用する理由 (複数回答)

友人・知人に会える(39名)、レクリエーションが楽しい(41名)、元気になる(36名)、食事がとれる(29名)、皆との会話が楽しい(45名)、家族や福祉の人が行くことをすすめる(5名)、外出先が他にない(14名)

その他：お店があるから楽しみなど(3名)

#### ふれあいデイを利用して良かったこと・悪かったこと (複数回答)

良かったこと：元気になった(26名)、友人が増えた(35名)、楽しみが増えた(42名)

悪かったこと：レクリエーションがつまらない(0名)、疲れてしまう(2名)

特になし：特になし(33名)

その他：(0名)

ふれあいデイの職員のあいさつ・言葉遣い

とても良い(43名)、良い(7名)、ふつう(1名)、あまり良くない(0名)、良くない(0名)

ふれあいデイについて改善してほしい点

利用回数：増やしてほしい(14名)

レクリエーション：(4名)

食事：美味しい(4名)

職員：(0名)

送迎バス：(1名)

室内の環境：(1名)

ふれあいデイに興味を持ってほしい方を知っているか

・知っている(5名)、知らない(29名)

(3) アンケート結果に対する自己評価

ふれあいデイを利用する理由として、元気になった、レクが楽しい、食事がとれるという多数の回答をいただいております。ふれあいデイサービスセンターの設置目的である利用者の介護予防推進としての目的を果たせていると思われる。また、友人に会える・楽しいとの回答も多くみられ、高齢者の社会参加の機会の確保や、高齢者の生活における生きがいづくりに貢献していると考えます。職員の対応についても、適切であるとの多くの回答をいただいております。今後もこの結果を継続していけるよう、さらなる当職員の技術の向上に努めたい。

4 その他の自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

アンケートの結果から、デイサービスの運営全体に関し、利用者には満足いただけていると考えられる。その一方で、レクリエーションを負担に感じているという意見や、デイサービス内での友人知人との会話そのものを楽しみに利用されている方もみられることから、デイサービスの時間を利用者が負担に感じることなく過ごせるよう、個々の状態に応じたサービスや環境を提供できるよう努めたい。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

昨年度のアンケートで多く挙がっていた「日常的に買い物等の外出機会が少なく自分で商品を選びたい」というニーズに対応すべく、令和4年度から買物支援の一環として、終了時刻に合わせ日用品や食品を購入できる仕組みを各班月に1回ずつ取

り入れた。大変好評であり、引き続き継続していくとともに日常生活上の困りごとを引き続き把握していきたい。また、利用回数を増やして欲しいとの要望は例年あげられているが、利用者の班分けや送迎コース設定の都合上、現在の利用回数が限度であると思われる。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会福祉サービスに関する苦情解決規程に基づき、苦情解決責任者並びに苦情受付担当者を配置している。また苦情解決の社会性や客観性を確保するため第三者委員を配置し、苦情があった場合には適切に対応できる体制をとっている